

| | | |
|------|-------------|------|
| 学校番号 | 学校名 | 校長名 |
| 1 | 川崎市立 大師 中学校 | 森島 烈 |

| 学校教育目標 | | 今年度の重点目標 | |
|---|--|---|--|
| 一 責任を重んじ、着実に仕事を続ける人 一 正しい判断のもと自律的に行動できる人 一 情操豊かな社会性に富んだ人 一 健康で自主的な生活のできる人 一 愛情と感謝の心の持ち主 | | ① 生徒一人ひとりを支える体制の充実 ② 確かな学力の育成 ③ 豊かな心をはぐくむ教育、人権教育の推進 | |

| 評価項目 | 具体的な取組 | 成果と課題 | 具体的な改善策 |
|-----------------------------|--|---|---|
| 1 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○四月初旬、異動者も含めて全員で本校の学習評価についての研修を行った。また、各教科で時間割を調整し、お互いがみられるようにし、その後意見を伝え合うミニ授業研を昨年度に続いて今年度も行った。 ○探求的な活動については、1年生では、導入で「わたしたちのまちかわさき」、その後「SDGsの観点から一人一人、何ができるか」、「平和学習」につなげていく。2年生では、「自分の適性と将来の仕事」や「職場体験学習」とその経験を生かした更なる探究活動、3年生では、「日本の伝統文化に触れる」、「将来を見据えた進路学習」など、予定通り行うことができた。 ○職員会議の資料や、生徒総会の議案書や夏・冬休みのしおりなど、ギガ端末を使用することでペーパーレスが進んだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習については、昨年度から復活することができ、地域とのつながりを実感することができた。受け入れていただいた職場からも好評であった。来年度からもしっかりと継続していきたい。 ○各教科でのギガ端末の利用については、いろいろな使い方が定着してきている。 ○ミニ授業研は非常に有効で、先生方にとって負担は少なく、その中でしっかりと教科の話ができるので、大変好評であった。 ○道徳の研修会を行うことができた。川崎市教育研究会道徳部会の部長先生にも来校していただき、授業は若手教員2名が行った。道徳についてじっくり時間をかけることがなかなかできない現状があるので、教員に一回はこのような機会を設けることが大切であると実感している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○やはり、なんどいっても学校は授業が中心である。そして先生方の本務も各教科授業である。生徒が「わかった」「楽しい」と思えるような授業を行えるように、教員一人一人が日々努力し、魅力ある授業を展開することを目指していきたい。また、評価についても大原則の「指導したことを評価する」指導と評価の一体化をあらためて確認していく。さらには、日常の中で生徒としっかりとコミュニケーションをとるとともに、教科ごとに大きな違いがないよう、連携をしっかりと行う。 ○授業を1時間単位で捉えるのではなく、単元を意識し、その教時間の中で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいく姿勢を徹底する。 ○日常の授業の中でさらにギガ端末を使いながら、生徒に対しての情報モラル教育を徹底していく。 |
| 2 生徒指導・ 生徒理解 | <ul style="list-style-type: none"> ○本校の実態を踏まえた生徒指導に関する校内研修の充実につとめた。 ○欠席が続いた生徒については、常に共有させ、その都度、教育相談を行い、生徒の心のケアに努めた。日々の学校生活の中で継続的に関わること大切にしながら、生徒理解に努めた。 ○保健室やスクールカウンセラー、外部諸機関との連携を推進した。 ○比較的発見が早く大事には至っていないが、SNSでのトラブルが多い。生徒との信頼関係の構築と共に、日常の中での情報交換・共有の大切さを痛感している。 ○学校で過ごす際の服装について、昨年度に引きつつ生徒にも端末でアンケートをとり、先生方で話し合いをし、生徒の意見を尊重した。 | <ul style="list-style-type: none"> ○不登校生徒への丁寧な対応を進めるために、家庭訪問や電話連絡等を行い、生徒・保護者との対応に役立てた。また、月に1回不登校対策委員会を開催し、生徒の状況の共通理解に努めた。 ○学校での過ごし方やいじめの相談の見直しなど、さらに生徒と共に考えていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○常に一人ひとりに寄り添った温かく丁寧な指導・対応が実践できるよう、組織作りを引き続き進めていく。 ○「チーム大師」を意識して職員が一つになり、生徒一人一人が抱える課題を共有化し、連携した指導を進める。 ○引き続き、迅速な情報の共有を徹底する。 ○不登校生徒への対応を担任だけに任せず、学年を中心とした組織で支援ができるようにしていく。 ○保健室やSC、子どもサポート旭町、児童相談所、区役所など外部諸機関との連携を今後も深めていく。 |
| 3 健康・安全 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ○感染症予防のため、引き続き、手洗い、換気の徹底を行った。 ○個々の生徒の情報を共有し、アレルギー対策の研修を行うなど、安全な給食実施を推進した。また、エビペンの研修会も実施した。 ○夏場は、暑さ指数(WBGT)の測定を毎日、朝、昼、午後と行い、記録を必ず残すようにし、熱中症対策に努めた。 ○保健だよりを定期的に発行するとともに、健康教育の授業を計画的に行った。 ○防災教育では、校内防災対策委員会主催で年4回の避難訓練と、さまたや椅子を使った不審者対策も実施した。 | <ul style="list-style-type: none"> ○冬場は授業中の防寒着の着用を引き続き認める中で、換気を徹底した。特にCO2濃度の測定を各クラスで行い、徹底していった。 ○健康管理の徹底や熱中症・アレルギー対応（エビペンの使用方法、心肺蘇生法）さらには、LGBTQについて2・3年生の講演会の職員研修を実施する中で、事故防止とともに、職員の意識改革に努めた。 ○保健室利用者の中には、心のケアが必要な生徒も多く、スクールカウンセラーや教員との連携役として、養護教諭の果たした役割が大きい。 ○避難訓練では、津波対策としての垂直避難も行うことができた。いつ来てもおかしくない防災に向けて、しっかりとした準備を今後も続けていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○アレルギー対応では、命にかかわることがあることを職員に徹底するとともに、今年度も夏にアザラキシー症発症時の対応とエビペントレーナー講習の研修を行うことができた。命にかかわることであるので、毎年しっかりと研修を行っていききたい。心肺蘇生法研修についても実技を交えて行うことができた。 ○基本的な生活習慣の確立と新型コロナウイルスやインフルエンザ対策としての、手洗い、換気などは引き続き徹底し、健康安全への関心を高め、自己の健康管理ができる能力を身につけていきたい。 ○保健室とSC・支援CO・担任・学年との連携を深め、生徒支援・生徒理解に役立てていきたい。 |
| 4 支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ○支援教育COの授業時間を工夫することで、支援が必要な生徒・保護者への教育相談がより充実し、日々情報共有を行い指導に生かした。 ○学校に来にくい生徒や、なかなか教室には入れない生徒の居場所としてのステップアップルームが機能するようになり、担任や学年の先生なども巡回中に声掛けに来るようになり、生徒たちからも好評であった。 ○不登校対策委員会を定期的に開催し、個々の事例を確認した。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ステップアップルームの存在が多くの子の保護者にも認知されるようになり、そこを居場所とする生徒も増えてきている。また教室復帰を果たした生徒もおり、効果は確実であると考えている。 ○さらに保健室に立ち寄り、勉強を教えてくれる先生が居たことで、生徒たちの励みとなった。 ○夏休みには、自分たちで登校日を決け、友達と一緒に過ごすようになっていく。ただ人数が増えているので、もうひと教室増やすことができればいいのだが、施設上難しい。 ○毎月1回の不登校対策委員会の内容をさらに深いものとして、それぞれの生徒に合った効果的な対策なども考えていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ステップアップルームの利用生徒が増えてきてはいる。潜在的な利用生徒はまだまだいるはずである。入学式や新入生保護者説明会、小学校との情報交換時など、あらゆる機会をアナウンスをし、今以上に認知してもらおうようにしていく。 ○各クラスにはまだまだ支援を要する生徒が多くなるはずである。「教員の日」を磨き、見守る姿勢を徹底して、より多くの生徒が安心して、自分を出せるようにしていきたい。 |
| 5 研修 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導研修会を通して、生徒が抱える課題改善に向けて、より良い指導・改善策を全体で考え、指導力の向上を目指した。 ○毎年、夏休み中心に心肺蘇生法の研修とエビペンの使い方研修を行い、緊急時に備えている。 ○体調防止・不祥事防止に向けた研修会を行うとともに、朝の打ち合わせや職員会議でも、新聞記事を紹介するなど、ことあるごとに意識させた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○個々の生徒が抱える課題を共有することで、学校全体で生徒を支えるという意識付けになった。今後も継続していきたい。 ○不登校の生徒も多いが、今年度はSCによるカウンセリング研修を職員向けに行い、一人一人の資力向上に努めた。 ○体調・不適切な指導などの不祥事防止に向けては、ことあるごとに校長が話をしていく。職員にも意識が広がったと考えている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○今後もさまざまな校内研修を行うことで、教職員の指導力や規範意識等、資質・能力の向上に努める。 ○オンラインでの研修も増えてきているので、職員にいろいろな研修の機会をアナウンスし一人一人に合った研修に結び付けていきたい。 |
| 6 保護者・ 地域社会 等との連 携 | <ul style="list-style-type: none"> ○ようやく地域行事も復活してきており、夏祭り等も多く開催され、PTAと共にパトロールも復活した。また、授業参観や懇話会、体育祭、合唱コンクールなども入場制限なく行うことができた。 ○教委委員が「かわさきわらびっく」、若宮八幡の祭礼、川崎臨海病院健康祭、東門前小学校の「もんげんフェスタ」等多くの地域行事から声をかけていただき、演奏を行った。子どもたちも、コンクールとは違う楽しさをおぼわうことができ、それぞれからもとても高い評価をいただいた。 ○定期的な学校だよりや学年だよりの発行を続けることで、少しでも学校の情報を保護者・地域に伝えた。 ○月1回の地域見守り活動は継続して行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ○民生委員との情報交換や保護司との情報交換を今年も行うことができた。学校の状況や学校の日常の取組を伝えるとともに、地域からの率直な声も聞くことができた。大変有意義であった。 ○3年生の卒業前には、社会福祉協議会や民生委員さんのご協力のもと、難いはず体験事業を行うことができた。ボランティアや自分たちに何ができるのかを考える良いきっかけとなった。 ○学校だより、学年だよりなどを発行し、情報の発信に努めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習では、地域の方々の温かみや、仕事に対する考え方や、生徒がじかに触れることができた。来年度も「今できること」を相談しながら、地域の方々と共に学校運営に臨みたい。 ○本校の教育実践を保護者・地域に積極的に公開することで、地域の中での学校としての信頼を得られるよう教育内容の充実にも努める。 ○保護者アンケートではいろいろな意見を頂いた。検討を加え、来年度の学校運営に生かしていく。 |
| 7 働き方改革 | <ul style="list-style-type: none"> ○会議の精選や会議時間の見直しなどを行い、職員の健康の保持増進に努めた。 ○夏時間の時の一部活動終了時刻を一律18時であったものを、帰りの会終了時刻によって変更した。 | <ul style="list-style-type: none"> ○会議の持ち方の工夫や、ノー部活デーなど、少しでも職員の在学時間を減らせるように考えた。時間があれば別の仕事をする仕事熱心な先生方も多く、結果としては大きく改善はできなかった。 ○部活動終了時刻を見直したことで、少しではあるが、職員の在学時間を減らすことができた。こういった地道な活動を広げていくことが大切だと感じている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○先生方の働き方改革はまだ課題が山積している。市教委からの指示もあり、やらなければならないことは毎年増えているが、授業時数も変わらず、生徒が楽しみにしている行事や部活動などを削ることも難しい。発想の転換をし様々な工夫をして、少しでも早い時間に先生方が帰ることができるようにしていきたい。 |

| 学校関係者の評価 | | 学校運営のまとめ | |
|---|--|--|--|
| ○顧問の先生方は、平日、休日にもご指導いただき大変感謝しております。オーバーワークにならないよう、無理のない指導をしていただいております。 ○学校評価アンケートでは、「生活しやすい」「学習しやすい」「地域住民との良好な関係」「安全」など、子どもたちのためを思った意見が多いので、できるところから、改善できたらうれしく思います。など前向きな意見や、支えていただいていることがわかる意見をいただきました。 | | ○心に課題を抱え、生徒理解を深める必要がある案件は数多く上がっている。引き続き教育相談を活用しながら、生徒理解、支援教育の視点を持ち、日常の見守り活動で、生徒の細かい変化をとらえ、情報を共有化し、連携した指導を進める中で、温かく丁寧な指導・対応ができる組織作りをさらに進めていきたい。 ○教室に入りづらい生徒や悩みを抱えている生徒に対しては、ステップアップルームの活用をさらに充実すると共に、担任のみならず学年、養護教諭、支援教育コーディネーター、SC等、さらには、子どもサポート旭町や児童相談所、大師支所、フリースクール、など関係諸機関とも連携を密にする中で、学校全体で取り組んでいきたい。 ○先生方が、少しでも心に余裕を持てるように、仕事の進め方・働き方改革を推進し、働きやすい職場環境作りをさらにめざしていく。 | |